

こどもの城 ニュース



2011・9・1 NO. 233 発行 / (こどもの城) 広報課 ☎ 03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
http://www.kodomo-no-shiro.jp



はいはいポーズのかわいい赤ちゃん。どこか芸術的な雰囲気がただよいます。京都に生まれた黒川翠山（くろかわすいざん：1882-1944）は、日本絵画的な表現の作品を制作した芸術写真家です。日本絵画は「ぼかし」やくもの位置関係で奥行きを表現します。この赤ちゃんも顔やたいこはくっきりと写り、足はぼやけています。右上の落款（署名と印）も、まるで日本画のようです。翠山は西洋生まれの写真家、日本人として自分の表現に取り入れていったのです。

黒川翠山 愛い児（1906-1910年ごろ／ゼラチン・シルバー・プリント）
コレクション展「こどもの情景 こどもを撮る技術」展より
コレクション展「こどもの情景」は東京都写真美術館
（03-3280-0099）で開催中。「こどもを撮る技術」（～
9月19日）、「原風景を求めて」（9月24日～12月4日）。

写真こどもまつり
東京都写真美術館
所蔵作品から

見て、まねて、うごいて遊ぼう



スクリーンに映った「あさちゃん」と同じポーズをしてみよう！

〔こどもの城〕のAV（オーディオビジュアル）事業部では、子どもたちに“映像”のことをもっと知ってもらおう、親しんでもらおうと、ビデオライブラリーを中心に、さまざまな活動をしています。“映像”というのは、〈みる〉だけと思いがちですが、ビデオカメラを手にして撮影したり、アニメーションを作ったりというように“映像”を〈くする〉〈つくる〉プログラムもたくさんあります。このほかにも、さまざまな遊びのプログラムのなかで、“映像”を活用して〈あそぶ〉プログラムもあります。幼児向けの「なかよし映像広場」（Bスタジオ／月1・2回／金曜日）もその一つ。まねっこ遊びや親子のふれあい遊びに、じょうずに“映像”を取り入れて、楽しく遊んでいます。

“映像”を使う『なかよし映像広場』

“映像”と“音”と“ひかり”が作りだす世界で遊ぶ

「なかよし映像広場」では、大きなスクリーンに映しだされる、自動車の運転席から見える景色や、自然のなかで動き回る動物の姿を記録した“映像”を見ながらみんなで遊びます。スポットライトやいろいろな色の照明、音楽や身近にある音（効果音）などを組み合わせると、部屋全体が、スクリーンに映しだされた世界に入り込んでしまったような気分になります。“映像”と“音”と“ひかり”が、子どもたちを、いろいろな世界に連れて行ってくれます。

ひざにすわって運転手。親子ペアで「ドライブごっこ」

「ドライブごっこ」では、親子でペアになって遊びます。お父さんお母さんのひざの上が運転席。子どもは、ひざの上ですわって、見えないハンドルをにぎります。お父さんお母さんは、カッコいい“スポーツカー”。さあ、今からドライブに出発です。

大きなスクリーンには、運転席から見える景色と同じ景色が映しだされます。右や左へカーブする道路にあわせて、景色も次々とかわっていきます。AV事業部のスタッフが、カーブの多い山道を選んで、独自に撮影してきた“映像”です。



ひざの上にすわって「ドライブごっこ」

平成23年度版児童福祉文化財のポスター「子どもたちに読んでほしい本」ができました。厚生労働省のホームページ（http://www.mhlw.go.jp）からダウンロードができます。

エンジンをかけると、ブルブルと“自動車”が動き出します。お父さんお母さんには、がんばってもらって、ひざをゆすってもらいます。はげしくゆれる自動車もあれば、静かな自動車もあります。

子どもたちを乗せた、お父さんお母さんの自動車は、ゆっくりと発進して、道路を進みます。山道では、右に左に、大きく道路がカーブしています。右に曲がる時には、運転手も自動車も右にかたむきます。スクリーンの“映像”にあわせて、右に左にハンドルをきります。

坂道になるとひざのシートが後ろに倒れます。左右の動きだけではなく、前後の動きも加わり、動きも複雑になります。子どもたちも大喜び。実際に自動車に乗っているような感覚で、親子のふれあい遊びを楽しみます。

キャラクターのポーズを見ながら「まねっこ遊び」

まねっこ遊びでは、スクリーンに映しだされる“映像”を見ながら、子どもたちと遊びます。「象はどうやって歩くのかな？」「きりんはどのくらい首が長いんだろう？」。子どもたちが考えていると、スクリーンにぞうやきりんの“映像”が映しだされます。動かない絵よりも、動いて見える“映像”のほうが、分かりやすいので、「さあ、象さんのように歩いてみよう」「きりんさんの首のように、長〜くなってみよう」と言うと、みんなも“まねっこ”してくれます。

まねっこ遊びには、かわいいオリジナルキャラクターが登場します。うさぎをモチーフにした“あさちゃん”（2歳ぐらいの男の子）と“いとちゃん”（5歳

ぐらいの男の子）です。ひざをかかえてすわる、足を開いて立つ、2人で手を取り合うなどの体を動かす遊びのときも“あさちゃん”と“いとちゃん”が、モデルになってくれます。体つきは人間ににているので、ポーズや動きをまねしやすいようです。



あさちゃん(左)と
いとちゃん(右)

「なかよし映像広場」は、金曜日（月1・2回／13時45分～14時15分）に4階Bスタジオで開催されています。9～12月の予定は、つぎのとおりです。※11月3日はスペシャル版（13時30分と15時30分）
◇9月9・30日、10月14日、11月3・11・25日、12月23日



どうぶつになって「まねっこ遊び」

“映像”を使った遊びを家庭でも楽しんでほしい

「なかよし映像広場」に参加した、お父さんお母さんのアンケートには、「子どもがすごい集中力で見ていた」「赤ちゃんでも楽しめた」「親子のふれあいができて楽しかった」などの意見も寄せられています。「家で



おめめをかくして〜なにがでてるかな？

でテレビのつけっぱなしは良くないけれど、親子と一緒に“映像”を見て遊ぶのは良いことだと思う。“映像”に対する考え方、見方が変わった」という意見も寄せられました。

“映像”と私たちの関係は、いろいろあります。映画館で映画を楽しむ、ビデオやDVDソフトを家のテレビで見る、テレビ放送を見る、カメラで撮影する、けいたい電話で撮影してデータをこうかんする、インターネットでさまざまな画像を見る——数えきれないほど、さまざまな形で“映像”とふれあっています。

“わたし”を中心に考えても、本や絵を見るように“映像”を〈みる〉こともあれば、詩や小説を書いたり絵をえがいたりするのと同じように“映像”を〈くする〉こともあります。「なかよし映像広場」のように、遊ぶための道具の一つとして利用して〈あそぶ〉こともあります。

テレビやビデオから流れてくる“映像”も、それを受けとめる私たちの考え方一つで、いろいろな形で利用できるかもしれません。なにげなくテレビやビデオを見るのではなく、ときには親子のふれあい遊び、ごっこ遊び、まねっこ遊びのきっかけにしてほしいと思います。動物園や水族館に行ったときのビデオも、思い出としてだけでなく、そこに映っている動物などが、まねっこ遊びのモデルになるかもしれません。

FUJITSU

あなたを、まんやかに。

もっとワクワクできるように。もっとお役にたてるように。
私たちの技術や製品は、つねに使う人を想像して進化してきました。
富士通がめざすICTは、そう、人がまんやかに。
つくりたいのは、あなたのための明日です。

shaping tomorrow with you

夢をかたちに

